

授業科目名	イノベティブ総合コミュニケーションデザイン1		
英文授業科目名	Innovative Comprehensive Communications Design 1		
科目番号			
開講年度	2025年度	開講年次	3年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	学域／学部
授業の方法	講義／演習	単位数	2単位
科目区分	実践教育科目		
開講学科・専攻	情報理工学域		
担当教員名	山田 祥之		
授業関連 Web ページ	http://www.career.ce.uec.ac.jp/iccd/		

講義情報

主題および 達成目標	<p>情報理工学分野を始めとした人文・社会科学系・アート系等との多分野連携による“総合コミュニケーション科学”に基づく、イノベティブな価値の創出に必要な実践的技術者の基本的素養について理解し、PBL (Project Based Learning) 型プロジェクト演習によってそれを体験的に身につける。</p> <p>また、これらの活動を通じて主体的行動力・提案企画力とリーダーシップ力・コミュニケーション力を養うと共に以下を育成する。</p> <p>①イノベティブな価値の創出能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“Making Value for Society” という高い視点から課題を設定できる能力 ・専門知識や技術の応用、他分野統合による課題解決の探究・実践ができる能力 ・仮説検証のサイクルを回し、課題解決まで至るための能力 <p>②チームによる実践的遂行能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に至るための交渉・巻き込み・提案能力 ・チーム（組織）としての力を最大限に高めるビジョン共有・貢献意欲促進・コミュニケーション円滑化のための能力
前もって履修 しておくべき科目	特になし
前もって履修しておくことが望 ましい科目	特になし

<p>教科書等</p>	<p>特になし</p>
<p>授業内容とその進め方</p>	<p>◆授業の進め方</p> <p>科目の前半でPBLに臨むにあたって基本となる課題解決能力・チームコミュニケーション能力について、講義・ワークショップ（第1回～第3回）や、企業講師による授業・演習（第4回～第6回）で学び、PBLの準備を進める。</p> <p>この課題解決能力やチームコミュニケーション能力は企業等における基本的な仕事の進め方を実践的に学ぶものであり、産業界が求める技術者としての基本能力を養う社会人教育としての側面を持つ。</p> <p>そして、科目後半でのPBLにおいて、主体的かつ実践的にPBLを進める活動を通して達成目標に掲げる能力を育成していく。</p> <p>【第1回（4月10日）】 ガイダンス（※遠隔）</p> <p>講義</p> <p>【第2回（4月17日）】 課題発見・課題解決の基本的な考え方</p> <p>【第3回（4月24日）】 チームコミュニケーション</p> <p>【第4回（5月01日）】 サービスデザインとは</p> <p>【第5回（5月08日）】 アイデア創生フレームワーク</p> <p>【第6回（5月15日）】 アイデア創生の演習</p> <p>以下、PBL</p> <p>【第7回（5月22日）】 チーム活動1</p> <p>【第8回（5月29日）】 チーム活動2</p> <p>【第9回（6月12日）】 チーム活動3</p> <p>【第10回（6月19日）】 中間レビュー</p> <p>【第11回（6月26日）】 チーム活動4</p> <p>【第12回（7月03日）】 チーム活動5</p> <p>【第13回（7月10日）】 チーム活動6</p> <p>【第14回（7月17日）】 最終発表</p> <p>【第15回（7月24日）】 PBL振り返り</p> <p>PBLでの取り組みは、科目担当教員、類から参画される類担当教員、企業から参画される企業講師、技術指導員から多面的にレビューを受けることができる。</p> <p>●1 類担当教員：未定</p>

	<ul style="list-style-type: none">●2 類担当教員：バグス サントソ 准教授●3 類担当教員：山口 浩一 教授●企業講師：小野 俊之 講師（日立）●峯水 延浩 技術指導員
<p>授業時間外の学習 （予習・復習等）</p>	<p>特に PBL 活動に入って以降、グループ内の役割を遂行する必要から時間外の講義・演習（課題の遂行）を課せられることがある。</p>

**成績評価方法
および評価基準
(最低達成基準を含む)**

(a) 成績評価方法

当授業全般を通じての参画状況、発表およびレポート内容から以下を判定

- ・ 課題設定力や課題解決力の実践・発揮
- ・ PBL 活動やチームに対する貢献
- ・ 課題解決へ向けた組織力（コミュニケーション能力を含む）の発揮

総合評点の構成は以下

- 1) 各回の講義レポート・最終レポート 35%
 - 2) PBL 活動やチームに対する貢献（準備や実践） 45%
 - 3) 授業内における発表・質疑応答、ワークショップへの主体的取り組み 20%
- 以上を教員や自己によるルーブリック評価も踏まえた上で配点する。なお、テストは実施しない

(b) 評価基準

- ・ 最低達成基準：原則として総合評点が 50 点以上を合格（単位修得）とする。
- ・ 成績段階の判定基準：原則として総合評点により以下の成績段階とする。

50 点以上：可

60 点以上、70 点未満：良

70 点以上、90 点未満：優

90 点以上：秀

ただし、単位修得者（合格者）の人数と各成績段階の人数の比率に対する大学指定のガイドラインに従って、上記の総合評点の範囲を超えて成績段階をつける場合がある。

以下、総合評点の構成要素に関する基準について記述する。

1) 各回の講義レポート・最終レポート

- ・ レポートは主に講義の復習として位置付ける。講義を欠席した場合でもレポートの提出は可能だが、講義内容（レクチャー）の理解不足、グループワークを通じた他者の意見や考えと自己との相違からの考察不足を考慮して評価点は低くなる。
- ・ 提出期限および指定文字数の遵守： レポートは指定される期限までに提出すること。提出遅れは減点し、大幅な遅れや度重なる遅れは提出とみなさない場合がある。

2) PBL 活動やチームに対する貢献（準備や実践）

- ・ 所属チームで分担する自身の役割の完遂

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準備や活動における他者との協力、チーム全体への貢献 ・ リーダーシップやコミュニケーションを含む組織力の発揮や貢献 <p>3) 授業内における発表や質疑応答、ワークショップへの主体的取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他者の気づきや学びを支援するような言動や行動は加点要素となりうる ・ 他者が学ぶ環境へ悪影響を与えるような行為や受講態度（居眠り、ワークへの不参加や極度に消極的な態度、他者の発言等に対する誹謗中傷など）については、減点要素となりうる
オフィスアワー： 授業相談	適宜授業相談には応じるが、原則として公開 E-Mail へ連絡して事前に面談の予約を取ることを。
学生へのメッセージ	直近では、本科目において取り組みを進めたチームが U☆PoC（UEC アイディア実証コンテスト）の優秀賞を受賞するなど、過去様々な実績を残しています。 「学生時代に何か主体的に取り組んだ成果を残したい！」という学生は、ぜひ積極的に履修してください。
その他	授業に関する情報や各回の連絡については原則としてグーグルクラスルームからの連絡を中心に行う予定です。システムからの連絡を適切に受信できるようにしておいてください。
キーワード	課題解決型演習, PBL, 産学連携教育, 能動的学習, アクティブラーニング, デザイン思考